

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 17 章 パート 2

---

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

これ、理解しておいて下さい。

大水の上にすわっている大淫婦 (黙示録 17:1)

『大水』とは何か。答えは 15 節にあります。

水、すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国民、国語です。

(黙示録 17:15)

つまり第一に、世界的権力、全世界的に及ぶ大淫婦の権力です。それはあらゆる場所、あらゆる国にあり、世界中に広がっています。その力は王たちにも影響を及ぼし、不品行を行わせませす。(黙示録 17:2) 王たちは不品行のぶどう酒に酔い、大淫婦は力を得るために政治的指導者や王たちと寝る。世界的な権力、特殊な働き、際限のない繁栄と不純な情熱に満ちた女。

憎むべきものや自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手を持っていた。(黙示録 17:4)

その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン」という名であった。(黙示録 17:5)

遂に横行していた迫害が見えてきます。

そして、私はこの女が、聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。(黙示録 17:6)

この時、ヨハネはパトモス島でこの女を見ていて、非常に驚きました。

私はこの女を見たとき、非常に驚いた。(黙示録 17:6)

彼は何に驚いたのでしょうか？

女は 10 本の角、7 つの頭を持つ獣に乗っており、ヨハネはそれが何かを知ります。

私たちも 7 つの頭が何なのかが分かります。10 本の角については、もう既に学びました。

10 本の角は、復活したローマ帝国の 10 の国。

既にお話したように、ダニエル書 7 章にはそれに関する一切が書かれており、この 10 の国から 11 番目の角、**一本の小さな角 (ダニエル書 7:8)** が出て来ます。

これは何？もしくは誰？ それは、反キリスト。10 の国を支配する者。世界的指導者の反キリストが独裁者となり、再び復活した 10 の旧ローマ連合国を支配する力を得ます。

11 本目の小さな角が権力を得て、10 の国がこの女を乗せる。10 本の角に頭は 7 つ。

この 7 つの頭とは？

ヨハネは理解して、「非常に驚いた」と言いました。きらびやかな緋色の衣を着、裕福で、王たちと不品行を行う女が聖徒たちの血を飲んでいるのを、イエスの証人たちの血に酔っているのを、見たからです。(6 節)

ヨハネの時代、非常に激しい迫害が起こっていて、約 600 万人のクリスチャンたちがローマ皇帝によって殺されました。迫害は黙示録が書かれる前に始まって、コンスタンティヌス 1 世のミラノ勅令発布まで、異なる 10 回の波で押し寄せ、続いたのです。

コンスタンティヌス 1 世、覚えていますか？ クリスチャンに改宗した皇帝ですよ。

600 万人の殺害。

ヨハネは、彼らが異邦人たち、即ち異教徒たちで、キリスト教に敵対し、迫害して滅ぼそうとする者たちだということを理解したのです。

それから次に、ヨハネは女を見ました。彼女は、見た目は宗教家のように、クリスチャンたちの血を飲んでいきます。

中世時代はずっと、ローマ拠点の教会が宗教裁判の裁判官でした。5000 万人のクリスチャンの死の責任は、彼らにあるのです。「本当かなあ〜」と思う人は、自分で情報源をよく調べてみて下さい。

スペインの宗教裁判だけを見ても、ローマ教会の権威に膝をかがめない者に対して拷問や殺害が行われ、1522 年 8 月 5 日、たった 1 日で 135,000 人のクリスチャンたちがローマ教皇庁の命令で殺害されたのです。イエスを信じ、イエスに委ねたクリスチャンたちが、法王の権威に従おうとしなかったから。

これは、プロテスタントの目線で言っているのではありませんよ。大事なのはそこではない。非宗教的な歴史書やカトリック教徒が書いたものを読んでみて下さい。

「宗教」「秘められたバビロン」の拠点はローマ。

「ジョン、どうしてローマだと分かるんだ？」7 節を見て下さい。

すると、御使いは私にこう言った。「なぜ驚くのですか。私は、あなたに、この女の秘儀と、この女を乗せた、7 つの頭と十本の角とを持つ獣の秘儀とを話してあげましょう。」(黙示録 17:7)

ここ、チェックして下さい。獣が、何？

獣が、女を乗せています。初めは、獣に女が乗っていました。でも実際に起こっていることは、獣が女を乗せている。言い換えると、獣（反キリスト）が、残った偽宗教組織を利用するということ。本物の牧師や教師、信者である皆さんや私のような人間が携挙で取り去られた後、莫大な富と権力をまだ握っている不信者の巨大な組織が後に残り、そして獣は彼女を乗せ、利用するのです。

**この女を乗せた、7つの頭と十本の角とを持つ獣の秘儀とを話してあげましょう。(黙示録 17:7)**

繰り返し繰り返し出て来る7つの頭とは何でしょう。

**ここに知恵の心があります。七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、(黙示録 17:9)**

歴史の中で、7つの丘で知られる町はただ一つしかありません。誰か知っている人はいますか？それは、ローマ。今日もまだそう呼ばれていて、これには議論の余地はありません。“7つの丘、7つの山の町”は、昔からずっとローマの同意語として使われています。

ローマ。この先を見ていきましょう。本題はここから。

あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。そして彼は、ついには滅びます。地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現れるのを見て驚きます。(黙示録 17:8)

**ここに知恵の心があります。七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、(黙示録 17:9)**

創世記から黙示録の最後まで、バビロンを拠点とし、世を支配している偽宗教、淫婦は、ローマに座りローマから支配するのです。

**七人の王たちのことです。(黙示録 17:9)**

五人はすでに倒れたが、ひとは今おり、ほかのひとは、まだ来ていません。

**しかし彼が来れば、しばらくの間とどまるはずです。(黙示録 17:10)**

また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもありますが、先の七人のうちのひとりです。そして彼はついには滅びます。(黙示録 17:11)

あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、一時代だけ王の権威を受けます。(黙示録 17:12)

獣の支配下で10の国が力を得ます。

では、反キリストとは誰か？

「ここに知恵があります。」この言葉は以前にも出てきましたが、覚えている人？

答えは、ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。

**その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。(黙示録 13:18)**

「ここに知恵がある。その数が666であることによって獣を知れ。」

ここで再び同じフレーズが使われています。

**ここに、知恵のある考えが必要である。(黙示録 17:9 新共同訳)**

これによって、反キリストが誰であるのかを知りなさい。

カギはこれです。

**ここに七人の王がいる。五人は既に倒れたが、(黙示録 17:9-10 新共同訳)**

ヨハネがこれを書いた時、その時点で7人の王、7人の皇帝がいました。

1人目、ユリウス・カエサル。2人目、長期にわたって統治したアウグストゥス。

3人目、ティベリウス。4人目、カリギュラ。この名前は聞いたことがあるでしょう。

5人目、クラウディウス。6人目、ネロ。皇帝ネロ。7人目、ドミティアヌス。

7人の王たち。黙示録が書かれた時、ドミティアヌスは存在していました。

**ここに七人の王がいる。五人は既に倒れたが、(黙示録 17:9-10 新共同訳)**

彼らの内、5人は既に打ち倒され死んでいます。

皇帝ユリウスは暗殺、ティベリウスは毒殺、カリギュラは刺殺、クラウディウスは窒息死、ネロは自殺。このように5人は、不自然で、血生臭く、残酷な死に方をしました。

「ジョン、つまり何が言いたいのか？」一緒によく考えてみましょう。

7人の皇帝の内、ユリウス、ティベリウス、カリギュラ、クラウディウス、ネロの5人は既に倒れました。

**ひとは今おり、この時生きているのは、7番目のドミティアヌス。**

**他の一人は、まだ現れていないが、(黙示録 17:10 新共同訳)**

これが、反キリスト。まだ現れていません。

**以前いて、今はいない獣は、第八の者で、(黙示録 17:11 新共同訳)**

即ち、今までに7人いて、これから現れるのが8人目。その彼がカギとなる者です。

面白い事に、ドミティアヌスの後、公認の皇帝はいません。しかし、やがて現れます。

**それは先の七人の中の一人なのだが、やがて滅びる。(黙示録 17:11 新共同訳)**

つまり、彼は既にいたが死に、また再び戻って来るのです。

これ、見て下さい。

**ひとは今おり、ほかのひとは、まだ来ていません。(黙示録 17:10)**

**また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもあります(黙示録 17:11)**

「だからジョン、何が言いたいのか？」

反キリストは、元々の7人の皇帝の内の一りで、注目を集めるのは、6番目の男です。

**昔いたが今はいない (11節) 6番目の皇帝は、ネロ。**

知っていましたか？彼は、使徒パウロが関わっていた皇帝です。

パウロは皇帝の判決を受けたいと言い(使徒 25:21)、上訴して(使徒 25:25)、ローマに送られ、皇帝ネロの前に立ちました。

歴史的に見て同じ時に、ネロはパウロと関わって狂います。裸で街中に出たり、クリスチャン迫害を命令して、パウロの言葉を退けました。福音を拒絶し、狂っていったのです。

彼は宮殿の庭でクリスチャンを火あぶりにするなど、常軌を逸した史上最悪の皇帝です。

そして、ヘブル語の文字にはそれぞれに数字があり、ヘブル語で皇帝ネロの文字を数字で合計すると、

**666。**

私が固く確信しているのは、昔いて滅び、再び現れるのは皇帝ネロで、彼が反キリストだということ

す。説明しましょう。

彼はトーガ（古代ローマの外衣）を着て、バイオリンを手に現れたりしません。（\*ローマが燃えている間、ネロはバイオリンを弾いていたという故事）「誰だか分かる？」なんて言いません。そんな風には登場しませんよ。

皇帝ネロを、何万人、何十万人、何百万人もクリスチャンを殺すように突き動かした霊、極悪非道の迫害や奇行に走らせた霊、これと同じ霊が、反キリストを動かすようになるのです。皇帝ネロ自身が、何らかの形で、恐らく違う人格で再び地上に現れるのかもしれませんが。それでも彼の名前は 666 で、かなり興味深くミステリアスな形でこの描写に当てはまっています。

**彼は八番目でもありますが、先の七人のうちのひとりです。（黙示録 17:11）**

それはともかくとして、

**この者どもは心をつにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。（黙示録 17:13）**

誰が!? 10 の国が新しい皇帝に。

携挙が起こり全ての真のクリスチャンたち、牧師たち、聖職者たち、指導者たち、その他真の信者たち全員が取り去られた後、この組織が後に残って、そこで獣が言います。

「さあ、手を組もう。俺たちが思想をつにして、世界を支配するんだ。」そして 14 節。

**この者どもは小羊と戦います（黙示録 17:14）**

その目的は、真理のイエスにある信仰を滅ぼすこと。「現実を見ろよ!」「現実を生きろよ!」「そんな偏狭になるなよ!」と言葉により、また神学的に、肉体的に、小羊に戦いを挑みます。

**が、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。**

**また彼とともにいる者たちは、召された者、選ばれた者、忠実な者だからです。（黙示録 17:14）**

**御使いはまた私に言った。「あなたが見た水、すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国民、国語です。（黙示録 1:15）**

バビロンは、世界中どこにでも至る所にあります。

**あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようになります。（黙示録 17:16）**

何!? 彼女は、初めは、獣に乗っていたのです。初めは、自分が獣を支配していると思っていました。

しかし獣は、この偽宗教組織を利用するなり、女に牙を剥く。獣が権力を得るや否や、王座に座ると直ちに、基盤を固めると同時に、このローマに拠点を置く世界統一宗教組織に敵対します。

**その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようになります。**

**（黙示録 17:16）**

宗教、権力、巧みな操作、悪用。宗教によって政治体制を練ることができるよう法制化し、宗教によって統治し支配しようとする考え。

女は、自分が支配していると思っていたのに食べられてしまいます。これは、宗教によって国を支配できると考える全ての人に当てはまるのです。

「わたしの国はこの世のものではありません。」（ヨハネ 18:36）とイエスは言いました。

獣が女を滅ぼします。なぜ? 理由はこれ。



それは、神が、みことばの成就するときまで、神のみこころを行う思いを彼らの心に起こさせ、(黙示録 17:17)

神は、宗教組織が減ぶことを望まれました。

彼らが心をつにして、その支配権を獣に与えるようにされたからです。(黙示録 17:17)

あなたが見たあの女は、地上の王たちを支配する大きな都のことで。(黙示録 17:18)

聞いて下さい。この章の終わりに伝えておきたいことが 3 つあります。

1 つ目。ここで言われているのは、全ての宗派、いわゆる「キリスト教国」が、ローマの権力と勢力によって一つになるということ。なぜローマか？ では、なぜローマではない？ 携挙の後、世界中の権力が、この教会（アップルゲート フェローシップ）に集中すると思いますか？ ここには何もないじゃないですか！ ね！

でも残念ですが、この中には、その時にまだここに残っている人もいますでしょう。

彼女探しのため、彼氏が行こうと言ったから、お母さんに連れて来られた、保険の営業をして顧客確保のため、理由は何であれ、ただ集まりに参加している真のクリスチャンではない人たち、主を知らない人たち、そういう人たちは残ります。

そしてこの施設は、獣がするのと同じように、誰でも支配したい人が使うでしょう。

ローマは、権力、お金、領土、名声、それら全てに影響があります。

但し、これをカトリックの問題だと思っははいけません。そうじゃない。

バプテリスト教会にいるクリスチャンと同じように、この教会もそうであるように、カトリック教会にも信仰深く素晴らしいクリスチャンがたくさんいます。

しかし、教会から、固い信仰を持ったこれらの素晴らしいクリスチャンたちが取り去られると、彼らが所有していた色々なものや権限、地位を反キリストが悪用するのです。

2 番目に伝えたいのは、この教会にも直接関係することです。

私たちの心やこの教会の、どこに、“淫婦たちの母”バビロンが侵入してくるかということ。

私たちがここで行っていることは、ただ何となくやっているのでしょうか？ ただやっているだけ？ わかりません。クリスチャンなら誰でもやっているから私たちもやる？

それは、バビロンの一部ですよ。

私たちは個人としても教会としても、ただ歴史的、伝統的な流れで事を行うべきではありません。なぜなら、多くの伝統がバビロンから来ているからです。

私たちは、「このために、これをするんだ！」と言える集団でありたい。そう言って、聖書、聖句を示すことができる者でありたい。

ペンテコステの日のペテロのようでありたい。人々が「彼らは酔っ払っているんだ。」と言った時、ペテロは、「あなたがたの思っているようにこの人たちは酔っているわけではありません。これは預言者ヨエルによって語られた事です。(使徒 2:15 - 16)

『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。』(使徒 2:17)

「これはヨエル書 2 章の成就なんだ！ だから人々は異言を話し、このような事をしているんだ。」と言

いました。

教会も、それから個人としても、何かをする時はどんなことでも、単に宗教的、伝統的としてではなく、「私たちがこれをする理由は、これなんだ。」と言えるようになって下さい。「どうして朝に賛美をするのか?」「それは聖書の中に、毎朝毎朝、人々が祭壇で捧げ物をし、神の素晴らしさを褒め称えたとあるから。だから私たちも、みことばと同じようにしたいと願うんだ。」「なぜいつも教えるのか?」「それは使徒2章に、『**彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。(使徒 2:42 新共同訳)**』とあるから。」

しかし、何かをする時に、どんなことも、「みことばの中にこうあるからだ!」とは、ならないように。宗教的にはならないように。行いに於いて、宗教的な考えと戦いましょう。

「なぜ背の高い帽子を被り、緋色の衣をまとうのか?」「さあ…昔からこうなんだ。」

これはバビロン式です。同じことが、この教会にも、皆さんにも、私にも起こり得るのです。

3番目。これで最後です。

皆さんには、バビロンが至る所に入り込んでいることだけでなく、将来何が起こるのかだけでもなく、別のレベルで見たいのです。よく聞いて下さい。

真珠で豪華に身を飾っている女、自信たっぷりに緋色の獣に乗っていた女は、獣によって荒廃させられ、裸にされ、肉を食われ、火で焼き尽くされます。彼女は姦淫によって、自分が支配していると思っていました。

言いたいことは、この中の誰でも、神の家族の中の誰でも、「紫と緋の衣、真珠で自分を飾っているけど、酒を飲んで、不品行や淫行を行っているけど、でも私は獣を上手く乗りこなせている。」「自分で、ちゃんとコントロールできている。」と、淫婦をもてあそんでいるなら、あなたに聞いて欲しいことがあります。

「あなたは、滅ぼされる」

「あの女が荒廃させられ、裸にされ、肉を食われ、火で焼き尽くされたのと同じように、あなたも、そうなる。」

今日、これを聞いていて、「私は、自分の中の淫婦をちゃんとコントロールしている。」「私は大丈夫だ。気を付けて乗っているから。」と言っている人、淫婦があなたを乗せて、破滅に向かって運んでいきます。私は約束します。保証します。

「性的関係はあるけど、ちゃんとコントロールできている」と思っている若い人たち、「浮気や頭の中で膨らませている妄想が悪い事だとは分かっているよ。でも上手く乗っているから大丈夫。乗りこなせるさ。」と思っている既婚者の皆さん、いいえ、それはできません。“それは、絶対にできない”

**また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもあります (黙示録 17:11)**

今回のメッセージの一部は、とても現実的なことを伝えています。あなたが支配し、乗っていると思うその獣は、あなたに刃向かい、裸にし、恥をかかせ、荒廃させ、滅ぼします。あなたの肉を食らい、体を焼き尽くす。

意図的に厳しい言葉が使われています。それは、神が「**罪から来る報酬は死です。(ローマ 6:23)**」と再度言っているから。それに打ち勝つ道はありません。

このメッセージは大変重要で、緊急に伝える必要があったのだと思います。

あなたは、乗りこなしていると思っているかもしれない、コントロールしているつもりかもしれない。でも主は、愛を込めてあなたに語っています。「厳しい言葉で書かれた、この生々しい話から学びなさい。淫婦の汚れ、獣の醜さから学ぶのです。そうでないと、あなたも焼かれ、滅ぼされ、荒廃させられるから。」

この中で、淫行、姦淫、性的交友、不品行を頭の中で妄想したり、また現在それらを行っている人は、今、悔い改めなさい。今、それらを拒否し離れなさい。

獣を乗りこなすことはできません。誰にもできない。女も自分がコントロールしていると思っていましたが、最終的には焼き尽くされました。

私は兄弟として、男として、牧師として、皆さんに懇願します。切に願います。

今日、そこから離れなさい。悔い改めなさい。淫婦の獣から手を離しなさい。宗教的伝統という獣から手を離しなさい。

そして、真に主に身を捧げて下さい。今夜、神の御霊は、皆さんが悔い改め、祈り合う事を望んでいると信じます。

ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。

(ヤコブ 5:16)

「俺は乗りこなせる」と言って、この場を去ることもできます。でも乗りこなせません。

或いは自分を低くして、「ずっとこの淫婦や不品行と葛藤してきたけど、今夜、みことばを受け止めました。私は本当に自由になりたい。自分の罪を悔い改めます。主よ、憐れんで下さい。」とすることもできます。

兄弟たちは、喜んであなたのために共に祈ります。詳細を全て話す必要はありません。

ただ悔い改め、へりくだって「祈って下さい。」と言えばいいのです。

後は、主がどのようにあなたに出会って下さるか、期待してください。

これが、宗教でなく真理です。

「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」(ヨハネ 8:32)

宗教は縛り付け、真理は解放する。

今日、あなたが主の前に正直になるなら、主はあなたに出会って下さいます。

私が保証します。

まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者とするものでしょう。

(へブル 9:14)